

# 「考え、議論する」道徳授業を目指す学習展開 －問題解決的な学習と合意形成型道徳授業の視点を取り入れた授業実践を通して－

和歌山市立岡崎小学校  
教諭 加藤 久佳

## 【要旨】

道徳科の目標の実現や所属校の課題解決に向けて、主に、道徳的な判断力を育てることを重視した問題解決的な学習と合意形成型道徳授業の視点を取り入れた学習展開をそれぞれ考え、実施した。その際、意識して発問の種類を工夫することや、合意形成を目指した話し合い活動を取り入れることで、児童が課題に対して、主体的に考え、議論し合い、道徳的価値について理解を深めることができると分かった。また、道徳オリエンテーションや各授業における振り返りの時間を大切にすることが、児童の学習意欲の向上につながった。

## 【キーワード】

道徳科、「考え、議論する」道徳、問題解決的な学習、合意形成型道徳授業、道徳的な判断力、道徳オリエンテーション

## 1 研究のねらい

平成 30 年度から全面実施となる小学校の道徳の教科化に向け、次期学習指導要領では、授業づくりにおいて、「発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う『考える道徳』、『議論する道徳』へと転換を図る。」ことが示された。

これまで所属校では、総合単元的な道徳の学習展開として、道徳の時間を中心に、他教科や特別活動等との関連を表した「単元構想図」を作成し、意図的・計画的に取り組んできた。また、道徳の授業における指導の充実を目指し、読み物教材を扱った授業を中心に、導入、話し合いの場面、終末、板書、道徳ノート、授業のあしあと等において工夫を重ねてきた。このような取組の成果として、単元構想図を徐々に深化させながら、教材研究を積み重ねることで授業力向上につながられたこと等が挙げられる。一方、課題としては、道徳の授業において、「道徳的な判断力」の育成を重要視することや、児童の学習意欲を更に向上させること等が挙げられ、これらの課題は、道徳が教科化に至った背景と重なる部分が多いと思われた。従って、「考え、議論する」道徳授業を目指すことで、道徳科の目標である道徳性、つまり、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育て、所属校における課題解決にもつなげることができると考え、研究を進めることとした。

## 2 研究の内容

研究を進めるにあたって、所属校のこれまでの研究・実践を継続しつつ、研究構想図(図1)をもとに、以下に研究内容3点について述べる。

### (1) 道徳オリエンテーションについて

オリエンテーションについては、ねらい、具体的内容(説明事項と実態把握)、実施時期について実践順に述べる。

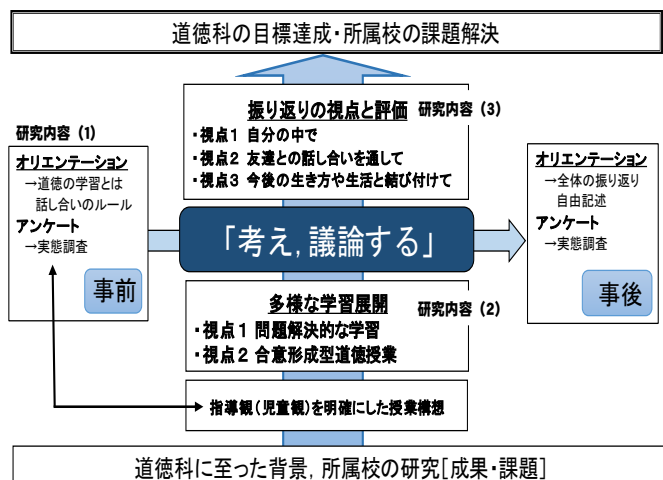


図1 研究構想図

## ア ねらい

オリエンテーションのねらいは大きく2つあると考える。まず、児童に道徳の時間は何を、どう学ぶ時間であるか、また自分自身への振り返り方や実生活へのつながりについて意識させること。次に、年度始めにおいては、児童の実態把握を、年度末については、児童の変容を把握する機会とすることである。

### イ 具体的内容

始めのオリエンテーションでは、児童を行う説明の具体的内容を、次の(ア)～(ウ)の3点とした。

(ア) 学習の心構え

(イ) 話し合いのルール

(ウ) 振り返りの仕方

- |   |                             |
|---|-----------------------------|
| 1 | 話し合いは全員参加する                 |
| 2 | 意見は必ず理由をつけて発表する             |
| 3 | 他の人の意見には、はっきり賛成か反対かの態度表明をする |
| 4 | 理由が納得できたら、その意見は正しいと素直に認める   |
| 5 | 自分の意見を変えてもよい。ただし、その理由を言う    |
| 6 | みんなが納得できる理由をもつ意見は、みんなでする    |

図2 話し合いのルール

まず、(ア)については、道徳の時間には、道徳的価値について考える時間であること。また、考えるためには、それぞれが自分の意見を持ち、話し合う過程が大切であることについて説明する。次に、(イ)については、渡邊(2013)が、授業の中で学習活動として行われる話し合いがその機能を果たすものとなるためには、日常会話では意識されることの少ない話し合いのあり方を意識化することの必要性を述べていること等を参考に、図2「話し合いのルール」を作成した。これを年度始めに示し、(ア)学習の心構えの内容を具体的にイメージさせるとともに、6項目を全員で少しずつ共有し定着させていくことを説明する。(ウ)については、研究内容(3)で詳細を述べるが、主に各時間の振り返りの視点、方法等について説明する。

また、このオリエンテーションを、授業者が児童の実態把握をする機会とし、図3に示すアンケートの9項目(4件法で回答)と自由記述により行う。9項目については、質問事項の1, 2が自分に関すること、3～7が集団に関すること、8, 9が今後の生き方に関することとして設定している。これらは、後述する研究内容(3)アの各授業後の児童の振り返りを見取る3つの視点①～③と対応させている。

- |    |   |
|----|---|
| 1  | 道徳の授業が好きである                               |
| 2  | 自分の意見がきちんと言える                             |
| 3  | 友達の考えをしっかりと聞いている                          |
| 4  | しっかりと考えることができている                          |
| 5  | 友達と話し合うことが好きである                           |
| 6  | 主人公の気持ちを深く考えることができている                     |
| 7  | 話し合いで、友達の考えを聞いていて、はっとしたり、なるほどと思ったりすることがある |
| 8  | 自分の生活を振り返って考えることができている                    |
| 9  | 道徳の時間に考えたことを、普段の生活の中で、進んで生かそうと思う          |
| 10 | 自由記述                                      |

図3 事前・事後アンケートの質問事項

これと同じアンケートを、終わりに行うオリエンテーションでも実施し、児童にしっかりと振り返りをさせた後、その変容を見取ることとする。

### ウ 実施時期

最後に実施時期であるが、児童が長い期間を経て変容していく姿を見取る必要があるため、年度始めと終わりの年2回が基本と考える。しかし、詳細に実態を捉える必要がある場合には、各学期始めと終わりの年6回というような流動的に設定をすることも考えられる。本研究においては提案授業の実施前・後にオリエンテーションを位置づけ、アンケートを行い、考察のデータとする。

このように、オリエンテーションを設定し、きちんと位置付けることで、児童は見通しをもって安心して学習や振り返りを行うことができ、意欲の向上等にもつながると考える。

### (2) 多様な学習展開について

「考え、議論する」道徳授業を目指すうえで、道徳科の特質を踏まえた質の高い多様な指導方法が求められている。これまで所属校の道徳授業においては、経年の積み上げにより、教材研究や指導方法の充実が図られているものの、年間のほとんどが読み物教材による中心人物の心情理解から道徳的価値の理解に迫る学習展開が多く、授業展開が固定化している面もあると考えた。そこで、本研究では、道徳的な判断力を育てることを重視し、児童が主体的に考えることができる問題解決的な学習や合意形成型道徳授業の視点を取り

入れた学習展開をそれぞれ考え、授業実践を行う。なお、この2種類の学習展開は、読み物教材を大きく2つに分けて考えている。問題解決的な学習の視点を取り入れた学習展開は、これまで所属校において主に扱ってきた読み物教材の中から、合意形成型道徳授業の視点を取り入れた学習展開は、葛藤場面があるジレンマ教材の中から扱っている。

**ア 視点1 問題解決的な学習**

永田(2016)は、道徳科における問題解決的な学習の方法として、発問の種類を多彩に考える必要があり、発問の大きさ・四区分(図4)を参考に、児童が自分との関わりを深め、主体的に考える発問を投げかけることが重要としている。これまでの筆者の実践を振り返ると、図4に示す、場面を問う中心発問、つまり、「このときの主人公の気持ちは？」などと問うことが多かった。そこで、児童が主体的に考え、対話を通して道徳的判断力が高まることを目指して、教材の話の場面にとらわれず、人物や教材、そして価値を問う発問を大切に学習展開を考える。

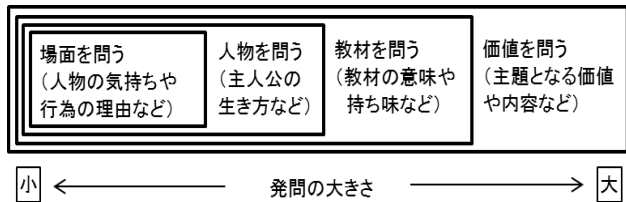


図4 発問の大きさ・四区分(※1)

**イ 視点2 合意形成型道徳授業**

淀澤(2016)によると、合意形成型道徳授業ではジレンマ教材(注1)を活用し、図5に示すような流れを基本としている。これまでの道徳授業では、児童がコンフリクトの状況に陥った、いわゆる道徳的葛藤から判断に悩むという場面で、それぞれが価値について考えをもつところで終末とする展開が多かった。しかし、合意形成型道徳授業では、そこからさらに学級全員がその解決に向けて、話し合いを行い、全員が納得できる理由を見つけ、実践につなげていく過程に特徴がある。この学習展開の特長は、話し合う過程において互いの意見を大切にすることや、根拠をもった主張が求められるため、道徳的判断力が身につくことなどが挙げられる。よって、話し合い活動が中心となる授業を展開する中で、自分の主張の根拠を出し合い、議論し合いながら、学級全員で合意を形成していく授業を展開する。

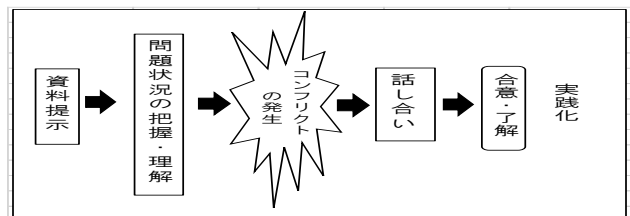


図5 合意形成型道徳授業の流れ(※2)

このような合意形成の過程については、グローバルな国際機構である OECD(経済協力開発機構)の役割(注2)の中でも、その重要性が示されているところであり、道徳の時間の学習展開として児童に取り組みさせることは、自分にも他者にもよりよい解決方法を見出す話し合いの在り方につながり、将来、児童が社会に出たときに実践的に働く力につながると考えている。

また、授業実践においては、先行研究から、話し合う時間を十分に確保することが重要となるため、1つの教材を2週続けて行うことや、話し合いまでに自分の意見を事前にもたせておく等の工夫が必要であると考えられる。

**(3) 振り返りの視点と評価**

本研究における授業実践を評価するためには、ここまでの研究方法に基づき、授業を実施したうえで、「考え、議論する」道徳授業になり得ていたかを判断する基準が必要である。最も大切なことは、話し合いを通して、本時の目標のねらいとする価値について、児童が考えを深められていたかどうかであり、単純に話し合い活動の活発さで測れるものではないと考える。また、本研究で提案する授業展開で行ったとき、児童がどのような反応、感想をもつかを知る必要があるとともに、話し合いの過程を通して、学習意欲が高まったかどうかを把握できる手立てが必要であると考えた。

そこで、次の3つの振り返りの視点を持ち、研究した。

- ア 各時間終了時の振り返り
- イ 各時間導入時の前時の振り返り
- ウ 年度末の振り返り

アについては、振り返りカードを用い、各時間末に5分間程度で実施するもので、内容は図6に示すとおりである。ポイントとしたことは、まず、本時で扱う価値について考えを深めたことや、考え、議論したことに対する意見や感想を記述させる。それを3つの視点、①しっかりと自分の考えをもつことができたか(自分)、②友達と自分の考えを比べ、どのように考えたか(集団)、③これからの自分の生活に、どのように生かしていこうと思うか(今後の生き方)について分析し、児童の考えの変容を見取ることで、道徳的価値について理解が深まったかどうか、話し合いを通して自分事として考えることができたかどうか等の評価を行うことを考えた。加えて、道徳の時間を楽しめたかどうかを4件法で回答させ、数値化し、授業評価につなげることとした。

イについては、各時間の導入時に2分間程度で実施するもので、内容はアの振り返りの記述を用い、共感的理解と評価(ほめる)を加えて行う。選定のポイントとしたことは、アで述べた①～③の3つの視点について記述されているものとし、コメントを紹介する児童の了承や重なり配慮して行う。こうした好例を示すことにより、オリエンテーションで説明した道徳の時間の心構えや、話し合いのルールについても繰り返し理解を深めていけるものとする。また、この導入時の振り返りの時間をのりしろとして、週一回の道徳の時間のつながりを作っていくことで、道徳の時間に対する意欲等が高まるのではないかと考えた。

ウについては、研究内容(1)で示したオリエンテーション時の図3のアンケートを15分間程度で実施する。これを数値化し、年度始めと年度末での変容を見取るデータとすることを考えた。

こうした振り返りを行うことを通して、各授業や年間を通しての児童の変容を見取ることができると考える。また、本研究においては、「道徳科における評価」を研究内容と位置付けてはいないが、現在の道徳の時間における共感的評価には、十分に対応していけると考えている。さらに、「道徳科における評価」を実施していく際には、今回研究したような振り返りを行っておけば、それらを根拠資料としながら、評価が可能とも考えている。

### 3 所属校における研究授業

平成28年10月21日から12月5日にかけて、所属校の第6学年(2学級66名)を対象に、合計4つの読み物教材を使い、「考え、議論する」道徳授業を目指した研究授業を実施した(表1)。今回は、全6回の授業のうち、視点1の問題解決的な学習が1回、視点2の合意形成型道徳授業が5回となった。その理由は、授業実施前の計画の段階では、2つの視点を3回ずつ行う予定だったが、第1回の教材「お楽しみ会」を使った授業を行った際、合意形成を目指した話し合いの中で、児童が主体的に話し合いを続けてい

1 今日、学習した感想【感じたことや感動したこと】を書きましょう
2 今日の学習でわかったことを書きましょう
3 授業の何から、【話し合いの中の友達の考えや資料の中の出来事や言葉など、どこで】そう思いましたか
4 今日の学習を振り返って、当てはまる番号に、○をつけましょう
ア 今日の授業は楽しかった
イ 友達の考えをしっかりと聞けた
ウ 自分の意見が言えた
エしっかりと考えることができた
オ話し合いの中で、新しい発見や気づきがあった
※ア～オは、①とても②まあまあ③あまり④まったくの4件法で問う

図6 各授業終了時の振り返りカードの項目

表1 研究授業計画

回	実施日	教材名	内容項目
オリエンテーション		学習の心構え、事前アンケート(pre)	
第1回(視点2)	10/21(金)	お楽しみ会(前半)	A 自律、自由と責任 B 友情・信頼
第2回(視点2)	10/27(木)	お楽しみ会(後半)	
第3回(視点1)	11/4(金)	ブランコ乗りとピエロ	B 相互理解・寛容
第4回(視点2)	11/10(木)	なくしたかぎ	B 友情・信頼 C 規則の尊重、家族愛
第5回(視点2)	11/17(木)	命の順番(前半)	C 勤労、家族愛 D 生命の尊さ
第6回(視点2)	11/28(月)	命の順番(後半)	
オリエンテーション	12/5(月)	事後アンケート(post)、全体の振り返り	

の様子を見て、今後も話し合うための十分な時間を確保する必要性を感じたためである。そこで、視点2の合意形成型道徳授業については、教材によって、2時間扱いで授業を実施した。

(1) 道徳オリエンテーションについて

始めのオリエンテーションは約15分で、終わりに行ったオリエンテーションは、約20分で実施した。また、児童の実態を捉えるために、始めのオリエンテーションで行った事前アンケートと、児童の変容を捉えるために、終わりのオリエンテーションで行った事後アンケートを授業研究の検証データとして用いるため、事前・事後アンケート9項目を4件法で問うた項目の回答結果を数値化(注3)して表2に示している。

表2 事前・事後アンケートの結果 (n=60)

質問事項	事前	事後	差
1 道徳の授業が好きである	3.1	3.3	0.2
2 自分の意見がきちんと言える	2.9	2.8	▲0.1
3 友達の考えをしっかりと聞いている	3.5	3.7	0.2
4 しっかりと考えることができる	3.3	3.8	0.5
5 話し合うことが好きである	3.3	3.4	0.1
6 主人公の気持ちを深く考えることができる	2.9	3.4	0.5
7 話し合いで、はっとしたり、なるほどと思ったりすることがある	3.4	3.6	0.2
8 道徳の時間に、自分の生活を振り返って考えることができる	2.5	2.9	0.4
9 道徳の時間に考えたことを、普段の生活の中で、進んで生かそうと思う	2.8	3.1	0.3

※ ▲は差がマイナスになっていることを表す

(2) 多様な学習展開について

道徳的な判断力を育てることを重視した授業の具体として、研究内容(2)の2つの視点の学習展開について、教材「ブランコ乗りとピエロ」を扱った第3回の授業展開(図7)と、淀澤(2005)の「なくしたかぎ」を追試した第4回の授業展開(図9)について順に述べる。

ア 視点1 問題解決的な学習「ブランコ乗りとピエロ」

導入では、前時の道徳の時間の振り返りを行うことで学習意欲を促した後、範読をし、発問①、②を続けて行った。サムに対するピエロの気持ちの変化をはじめと終わりに分けて問い、その変化したきっかけに焦点を当て、「何がきっかけで(怒り等が)消えてしまったのだろう。」と補助発問をした。児童から、「サムの疲れ果てた姿から」等が挙がり、変化のきっかけとなったサムの姿や行動をおさえた。また、このような児童とのやりとりをしながら、教材全体の内容がわかるように、黒板全体を使った構造的な板書を心がけた。その後、中心発問③を投げかけ、自分の考えやその理由をワークシートに書き、発表をさせた。それを、道徳性の発達段階を意識しながら大きく3つの視点で分け、板書を行った。児童は、「がんばっているサムを見て、感心したから。」等のサムの姿や行動の視点、「私もサムと同じ目立ちたいという気持ちがあり、反省しているから。」等の自分自身の視点、「私はリーダーだ。もっとサーカス団をまとめなければ思ったから。」等の全体やリーダーの視点から出されたものを、ピエロの心情や判断の根拠を整理しながら話し合いを進めた。

時間	学習活動	発問と留意点(※)
3分	1. 前時の振り返り 2. 主人公ピエロの気持ちを考え、話し合う	○ピエロの気持ちを考えながら聞きましょう。(範読)
7分		発問① ピエロは、はじめ、サムのことをどう思っていましたか。
7分		発問② そんなピエロが、終わりでは、サムのことをどう思っていましたか。 ※ピエロのはじめと終わりの気持ちの変化をおさえた後、変化するきっかけになったサムの姿や行動に焦点化していく。
13分		発問③ ピエロは、何度も思い出しながら、どんなことを考えていたのだろう。 ※児童の考えを道徳性の発達段階を意識した3つの視点から、ピエロの心情や判断を整理していく。
10分	3. 学習のまとめ	発問④ このようなピエロの生き方をどう思いますか。 ※子供の考えを尊重しながら、よりよい生き方につながるよう意味付けしていく。
5分		○今日の振り返りを書きましょう。

図7 「ブランコ乗りとピエロ」授業展開

今回は、ピエロの心情について理解を深めたこの時点で、発問④として、教材全体を通したピエロの生き方、それ自体を問うことで、図4の発問の大きさを意識した展開を行った。

授業後の児童の振り返りカード(図8)には、「ピエロの生き方は、人の理想の形と思った。憎しみから尊敬っていう形に考えが変わることはとても難しいことだと思うから、すごいなと思った。」等の感想があり、ピエロの生き方を通して考え方を改めて物事を見ることは、よりよく生きることにつながると気付く学習となった。

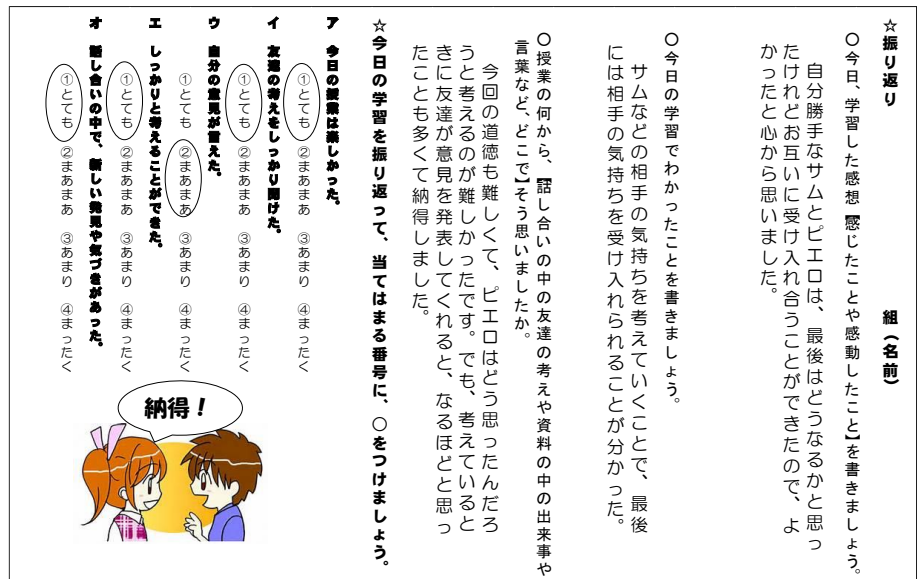


図8 各時間終了時の振り返りカード(児童の言葉を転記したもの)

イ 視点2 合意形成型道徳授業「なくしたかぎ」

まず、導入では、前時の振り返り、資料提示と範読をした後、中心発問①を行い、問題状況の把握・理解をした上で、話し合いに入った。主人公のあきらがとるべき行動について、かずおのかぎを一緒に探すべきか、親との約束を守るために先に一人で帰るべきか等、児童は判断に迷い、葛藤するコンフリクトに陥る。具体的には、「一人で帰る」と「一緒に探す」、「二人であきら家に帰る」の3つの意見が出た。話し合いが進むと、「一人で帰る」の立場の子が、「二人であきら家に帰る」の立場へ徐々に変わるなどしながら、それぞれの立場の考えが主張され続けたが、ここでは、児童一人一人の考えを尊重しながら話し合いを進めた。

時間	学習活動	発問と留意点(※)
3分	1. 前時の振り返り	
5分	2. 主人公あきらが、とるべき行動について考え、話し合う	○あきら気持ち考えながら聞きましょう。(範読)
15分		発問① あきら、どうすることが一番よいのか、自分の考えを理由とともに書きましよう。 ※それぞれの立場を明確にさせ、児童一人一人の考えを尊重する。
5分		発問② 2人の両親が、望んでいることは何だろう。 ※別の視点を与え、多面的・多角的な考えへと広げる。
12分		発問③ あきら、どうすることが一番よいのか、2組の考えをつくらう。 ※すべての立場の人が納得する考え(合意形成)を目指し、話し合わせる。
5分	3. 学習のまとめ	○今日の振り返りを書きましよう。

図9 「なくしたかぎ」授業展開

通常、ジレンマ教材を使ったこれまでの授業展開は、ここでオープンエンド形式で終わることが多かった。しかし、本研究では、ここから合意形成を目指すことで、さらに話し合い(図10)を深めていき、「考え、議論する」道徳授業を目指した。話し合いが、主人公のあきらとかずおの2人の視点で進んでいたが、別の「両親」の視点から考えさ



図10 小集団による話し合いの場面

せる発問②を投げかけることで、より多面的・多角的な話し合いへと広がった。その後、もう一度、中心発問③を行い、クラス全員が納得できる考えを探す、合意形成を目指した話し合いを行った。その結果、「一度、あきらの家に2人で帰って、両親を安心させてから、もう一度探しに行く。」という意見が出され、これに全員が納得した。

授業後の児童の振り返りカード(図11)を見ると、「今までの道徳とは、何かちよっと違って、今までには感じなかった道徳の楽しさを感じることができた。」「みんなの意見がそろったら、こんなに達成感があることを初めて知りました。」等の感想が見られた。

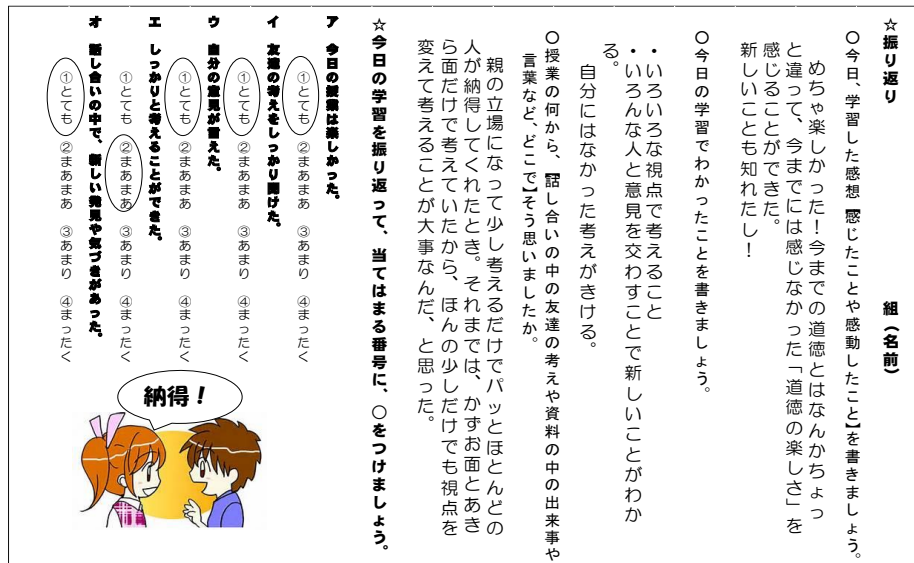


図 11 各時間終了時の振り返りカード(児童の言葉を転記したもの)

(3) 振り返りの視点と評価

振り返りについての検証データとして、研究内容(3)のア各授業の振り返りと、ウ年度末の振り返り、今回は全授業終了後の振り返りとして、実践を行った後の振り返りの結果を示す。

まず、図6で示した各時間終了時の振り返りカードは、4件法で問うた3項目の回答結果を数値化し、表3に示している。次に、全授業を終了し、後日行った全体の振り返りについては、全9項目の質問事項を4件法で問い、その結果を肯定的・否定的評価に分け、回答人数の割合を表4に示している。それぞれの自由記述については、適宜引用しながら考察を進めることとする。

表 3 各時間終了時の振り返りカードの結果 (n=60)

質問事項	第1回	第2回	第3回	第4回	第5・6回
1 今日の授業は楽しかった	3.7	3.8	3.6	3.8	3.6
2 友達の考えをしっかりと聞けた	3.7	3.8	3.7	3.8	3.8
3 自分の意見が言えた	2.7	3.0	2.8	3.1	2.7

表 4 全体の振り返りの結果 (n=60)

質問事項	肯定的	否定的	
今までの道徳の時間と比べて	難しかった	96.9%	3.1%
	考えた	98.4%	1.6%
振り返りの時間について	前の学習を思い出すことができた	89.1%	10.9%
	やる気が出た	81.3%	18.8%
	その日の学習に役立った	73.4%	26.6%
話し合いについて	話し合いのルールがあつてよかった	81.3%	18.8%
	自分の考えが深まった	92.1%	7.9%
自分の生き方と関連させて	「よりよく生きる」ためのヒントになった	95.3%	4.7%
	学習したことが、自分の生活と結びついたことがあった	51.6%	48.4%

4 成果と課題

2 研究の方法で示した、研究内容3点の効果について、上記の検証データと成果物、授業者の見取りから、成果と課題を順に述べる。

(1) 成果

研究内容(1)道徳オリエンテーションについては、児童の学習意欲を高め、道徳の学習は何を学ぶ時間であるかを児童に意識させる効果があったと言える。表2からわかるように、事前と比べると、全体的に事後の数値が上がっていることや、アンケートの自由記述に、「前までは、道徳は何のための授業なのか、ちゃんとわかっていなかった。」「道徳は、

よりよく生きるための第一歩につながる大切な授業だと思いました。」等、肯定的な感想が多く、今回、道徳オリエンテーションを実施することによって、児童は、道徳の学習の心構えや話し合いのルールを知り、道徳は何を学ぶ時間であるかについて捉え直すきっかけになった。

**研究内容(2)** 多様な学習展開については、今回2つの視点から行ったどちらの実践も、児童にとっては、難しさを感じつつも授業自体は楽しみながら学習し、考えることや話し合うことへの意欲の向上につながったと感じている。それが、表3「授業は楽しかった」「しっかり聞けた」が、毎回、高い数値で推移し、表4「難しかった」「考えた」の数値が高いことから分かる。授業後の振り返りにも、「どうしようか迷うというのは、楽しいことだと今日の学習ですごくわかりました。」「A君が言った言葉が心にしっくりきました。」等があり、多くの児童が、これまでの道徳の授業より、話し合いを通して考えることに楽しさを見出すとともに、道徳的な判断力を育てる学習展開になり得たのではないかと考えている。また、1つの教材を2週続けて行った授業実践についても、児童の学習意欲の低下は見られず、合意形成を目指した話し合う過程において、終始、主体的に考えている児童の姿が多く見られた。

**研究内容(3)** 振り返りの視点と評価について、3つの振り返りの視点から分析することで、それらを授業者が児童の変容の様子を見取る際の基準とすることができた。授業でねらいとした道徳的価値に対する理解の深まりや、個々の道徳性の発達段階を判断する材料となり、評価につなぐことができた。

授業における各時間導入時の振り返りについては、表4「振り返りの時間について」の項目で、「前の学習を思い出すことができた」が約9割、「やる気が出た」が約8割と高い数値を示し、また、「私の名前が出てくると、すごく嬉しくて、舞い上がりそうになる。そして、今日もがんばるぞ、と思えるようになった。」等の感想が見られることから、前時の学習内容を思い出すことや授業に対するモチベーションを高めることに効果が見られた。また、「僕の書いた振り返りを先生がどのように返してくれるのか楽しみだった。」等の感想もあり、授業者が児童の振り返りを共感的に評価していくことの大切さを改めて認識した。さらに、この授業導入時の振り返りの時間が、週一度の道徳の各時間をつなぐ役割を担っていたのではないかと考えている。

全体の振り返りについては、「みんなの意見を聞いていると、本当に大切なことが見えてきて、自分の考えが深まった。」「相手に対する考え方や見方を変えてみることで、相手の気持ちをもっと深く理解することができるということに気付いた。」等の感想があり、授業でねらいとした道徳的価値の理解を深められていることが分かり、このように児童の振り返りを見取っていくことで、年度末の道徳科の評価につなげることができると考えている。

以上の3つの研究成果を踏まえた上で、もう一度、今回の研究授業が、「考え、議論する」道徳の学習展開になり得ていたかどうかについて考察する。表2の2, 3, 4, 7の項目を事前・事後の変化がよくわかるように図12に表し、考察の材料とした。図12「自分の意見がきちんと言える」の「とても」と「まあまあ」を合わせた事後の肯定的評価の割合に注目すると、事前と比べて少し減少している。一方、「友達の考えをしっかりと聞いている」や「しっ

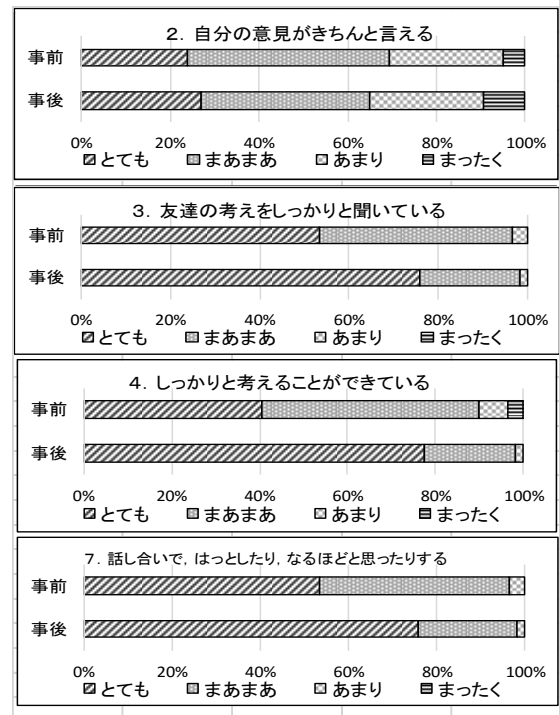


図12 事前・事後アンケート(2, 3, 4, 7)の4件法の割合



りと考えることができている」、「話し合いで、はっとしたり、なるほどと思ったりする」の「とても」の割合は、事前と比べて大きく伸びている。これは、児童が思ったことをすぐに発言するのではなく、しっかりと自分の中で考える時間を大切にしたいと捉えている。その結果、道徳的価値の理解を深めていく学習展開にもなり、感想に、「どちらかを考えるのが難しかった。でも、A君の発言で、僕も考え直せた。」等、新たな発見をしながら道徳的価値の理解を深めたり、「色々な意見一つ一つを頭で整理したり考えたりしたのは、初めてだった。」等、多面的・多角的な考えに広げたりしていた。また、「道徳で学習することは、これからの人生に役立つものばかりだなあ、と思った。」などと、よりよい生き方につながるものも多く、今回実践した学習展開が、「考え、議論する」道徳授業になったと考える。

## (2) 課題

課題としては、表2「道徳の時間に考えたことを、普段の生活の中で、進んで生かそうと思う」の事後の数値が事前と比べて若干向上したものの、全体的に見て低いままであった。同様に、表4「学習したことが、自分の生活と結びついたことがあった」の肯定的な割合が約50%と他の項目と比べて極端に低い値となっている。これらの要因としては、道徳の授業で考えたことや話し合ったこと、道徳的価値に対する新たな気づき・発見したことが、自分の生活や生き方に結びついたという実感が、これまで少なかったと考えられる。一方で、「あまり生活と結びつかなかったけれど、これからあるのかな、と思います。」「この授業をもとに、もっと実生活で生かそうと思いました。」等の感想もあり、今回のような、「考え、議論する」道徳授業の実践を続けていくことで、今後の児童の生活やよりよい生き方につながる学びになると考える。

## 5 研究のまとめ

### (1) 研究を振り返って

道徳科の目標である道徳性の育成とともに、所属校のこれまでの課題解決に向けて、「道徳的な判断力」を育てることを重視し、図1に示した研究内容3点について取り組んだ結果、一定の成果を得ることができたと考えている。今回の2つの視点から行ったそれぞれの学習展開は、児童に考えることの楽しさや、話し合いを通して道徳的価値に対する理解の深まりにつなげることができた。また、本研究で実施した授業終了時の振り返りについては、継続することでポートフォリオ評価となり、一年間を通した長期にわたり、児童の変容を共感的に見取っていくことができ、それらを所属校で行ってきた道徳ノートの活用と合わせることで、道徳科の評価となり得ることが分かった。

### (2) 今後に向けて

今回の研究をさらに深めていくための具体的な方法について3点述べる。

まず、道徳オリエンテーションを児童の発達の段階を考慮しながら各学年に応じた形で行うことで、児童の学習意欲の向上に、より効果があると考えている。つまり、道徳オリエンテーションは、6年間を見通した体系的な取組として学校全体で行っていく必要性を感じている。次に、これまでの年間指導計画を見直し、道徳性を育てるための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度のバランスを大切にしたい年間指導計画を考えていく。道徳科として教科になったとしても、これまでと同様、道徳の時間は、読み物教材を扱った学習展開が中心になると思われる。その中で、これまで所属校で主に行ってきた道徳的な心情を重視した学習展開や、今回の授業研究で行った道徳的な判断力を重視した学習展開等、計画的に配置し、実践していくことが大切である。最後に、道徳の授業で児童が考えたことや学んだこと、授業者の見取りや評価等を、児童の保護者に積極的に伝えていくことが重要になると考えている。授業者と保護者の両方から、共感的に児童に還元していくことが、児童の道徳的な価値の理解をより一層深めさせ、学習意欲の継続につながると考えている。

以上のことを大切にしながら、読み物教材を扱った学習展開を中心に、例えば、体験的

な活動を取り入れた学習展開等，さらなる多様な学習展開について，今後も探究していきたい。

<注 釈>

注1 荒木(2005)は，児童の道德性を発達させるためには，児童を道德的な不均衡状態，価値葛藤の状態に置く，つまり道德的な正しさが曖昧でどちらか決めかねる岐路の問題場面に置く必要がある。そのための道德資料のことをモラルジレンマ資料と呼んでいる。

注2 OECD加盟50周年に際し，外務大臣岸田文雄がOECDの役割の中で述べている。

注3 選択肢については，「とても思う」，「まあまあ思う」，「あまり思わない」，「まったく思わない」の4つで行い，それぞれを順に，4点，3点，2点，1点として合計した数値を回答者数で割ったものであり，最大値は4となる。

<引用文献>

- ※1 永田繁雄「小学校新学習指導要領の展開 特別の教科 道德編」p.122 明治図書(2016)
- ※2 淀澤勝治「道德性の発達段階と道德科の授業づくり」p.50 渡邊満，押谷由夫，渡邊隆信，小川哲哉『小学校における「特別の教科 道德」の実践』北大路書房(2016)

<参考文献>

- ・赤堀博行[監修]荻原武雄，荒木徳也，生越詔二，波岡輝男，長谷徹，後藤忠[編]『これからの道德教育と「道德科」の展望』東洋館出版社(2016)
- ・荒木紀幸「モラルジレンマ資料と授業展開」<小学校編>明治図書(1990)
- ・加藤宣行「道德授業を変える 教師の発問力」東洋館出版社(2012)
- ・杉中康平「道德教育研修講座①基礎②応用 研修資料」和歌山県教育センター学びの丘専門性の向上を目指す研修<選択研修>(2016)
- ・道德教育方法研究 第18号 淀澤勝治『共同的な合意形成過程をたどるための一方策に関する研究Ⅱージレンマ資料「ももいろの木いちご」「なくしたかぎ」のより合理的な教材解釈を通してー』日本道德教育方法学会(2013)
- ・永田繁雄「小学校新学習指導要領の展開 特別の教科 道德編」明治図書(2016)
- ・諸富祥彦『「問題解決学習」と心理学的「体験学習」による新しい道德授業』図書文化(2015)
- ・文部科学省「初等教育資料7月号」東洋館出版社(2015)
- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編」(2015)
- ・横山利弘[監修]牧崎幸夫，広岡義之，杉中康平[編]『楽しく豊かな「道德の時間」をつくる』ミネルヴァ書房(2015)
- ・渡邊満『「いじめ問題」と道德教育ー学級の人間関係を育てる道德授業ー』(株)ERP(2013)
- ・渡邊満，押谷由夫，渡邊隆信，小川哲哉『「特別の教科 道德」が担うグローバル化時代の道德教育』北大路書房(2016)
- ・渡邊満，押谷由夫，渡邊隆信，小川哲哉『小学校における「特別の教科 道德」の実践』北大路書房(2016)